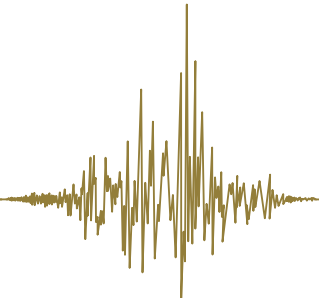


地震に対する知識と備えがいざという時に役立つ



避難生活を乗り切るためには、非常持ち出し品のチェックや避難場所の確認、情報収集の仕方を覚えておく必要がある

■非常持ち出し品をチェック

- 発災後すぐに持ち出す物
- 飲料水 □ ラジオ □ 応急医薬品 □ 笛 □ 現金（硬貨も） □ 懐中電灯 □ 貴重品
- 持病の薬 □ マッチやライター □ ティッシュペーパー □ タオル □ 生理用品 □ 軍手 □ 乾パンなどの非常食料 □ ヘルメット □ マスクなど
- ※沿岸部に住んでいる人は、逃げることを最優先にする
- 地震が落ち着き、家に戻って持ち出す物
- 飲料水（1人1日3日が目安） □ 非常食料（乾パンやアルファ米、缶詰、チョコレート、ビスケット、インスタント食品など） □ 燃料（卓上・携帯コンロ、ガスボンベ、固形燃料など） □ ポリタンク
- 洗面用具 □ 衣類 □ 毛布 □ 寝袋 □ ラップ・アルミホイル □ 雨具 □ ガムテープ など

●赤ちゃんがいる家庭では

- ミルク □ 哺乳瓶 □ 離乳食 □ オムツ □ おぶいひも □ ガーゼ □ スプーンなど

■救助のための準備

地震で火災が発生することもあり想定されるため、消火器を目立つところに準備しておく。

家屋が倒壊した時の救出活動に、大工道具（のこぎりやバール、ハンマー、スコップなど）が役立つので、取り出しやすいところに置いておく。

■東海地震の予知情報

東海地震の被害を最小限に抑えるため、国や県、大学などで研究や観測が進められている。

東海地震発生前には、断層の周辺で予兆的な現象が起きると考えられている。その現象が確認された場合、地震に関する情報が、広報、テレビ、ラジオで発表されることになっている。情報は3種類。

①事前現象が東海地震の前兆と判断できない、地震とは関係ないと分かった場合：

「東海地震観測情報」

②事前現象が地震の前触れの可能性が高まった場合：

「東海地震注意情報」

③東海地震発生の恐れがある場合：「東海地震予知情報」

①の場合は、テレビやラジオで情報に注意しながら、日常生活をする。②の状態では、政府や自治体からの呼び掛けに従い行動する。③の段階になると、警戒宣言が発令される。自治体の指示に従う。

●我が家の行動表

名前	日常いる可能性の高い場所
家族の集合場所	避難先

●家族の連絡先

名前	家族の連絡先

●非常時の連絡先(被災地外)

名前	連絡先

●防災カード

名前	
住所	
生年月日	
血液型	
勤務先	
所属自主防	

●覚えておきたい！災害時の連絡、情報確認方法

災害用伝言ダイヤル「171」

震度6以上の地震発生時にNTTで特設される。家族や友人などの安否を確認したい時に使う。一般加入電話や公衆電話、携帯電話から利用可能。保存期間は48時間で最大10件まで登録できる。

登録方法	再生方法
171 にダイヤルする ▼ ガイダンスが流れる	171 にダイヤルする ▼ ガイダンスが流れる
録音の場合 1 ▼ ガイダンスが流れる	再生の場合 2 ▼ ガイダンスが流れる
自宅の電話番号を入力 ▼	自宅の電話番号を入力 ▼
30秒以内で伝言を入れる	再生される

携帯電話「災害用伝言板」

大規模災害が発生した場合、それぞれの携帯電話ウェブ機能に「災害用伝言板」が追加される。登録された情報は、インターネット、携帯、PHSで確認できる。

同報無線確認ダイヤル

市内の同報無線で流れた直近の放送内容は、0537-85-1179で確認できる。